

五街道の付属街道に関する一考察

——特に水戸佐倉道を中心として——

山本光正

はじめに

- 一 五街道の呼称
- 二 水戸佐倉道の概要
- 三 佐倉道と水戸佐倉道
- 四 五街道付属街道と水戸佐倉道

おわりに

論文要旨

江戸幕府は主要街道を幕府の直接支配下に置き、次第にこの街道が五街道と呼ばれるようになった。さらに五街道から派生する街道のうちのいくつかを道中奉行支配下に置き、幕府支配の道としている。こうした街道を現在研究の便宜上五街道に付属する街道などと呼んでいる。

本稿においては幕府における五街道の意識と五街道という名称および五街道付属街道のうち、水戸佐倉道の性格について考察をしてみた。

五街道の名称は現在広く使用されているが、五街道とは幕府当初から意識されたわけではなく、交通制度を確立していく過程で意識され、五街道という名称もでき上つたものである。幕府が明確に五街道を意識するようになったのは寛文期頃からで、延宝期に至つてより一層五街道意識が確定したとみることが

できる。また五街道の名称が初めて幕府公文書に表わされるのは現在のところ貞享四年（一六八七）に至つてのことである。

五街道に付属する街道はほとんどが起点・終点をみた場合完結している。つまり主要街道間を結んだり、主要地に達している。ところが水戸佐倉道の場合千住から水戸又は佐倉まで道中奉行支配下にはなく、いずれも中途半端な松戸・八幡で道中奉行の支配が終っている。

水戸佐倉道の成立及び支配に関する史料が残っていないため、明確な結論を得ることはできないが、こうした形態は幕府の東国に対する防衛及び、房総半島を近世初期の幕府がどうみていたか、即ち幕府にとって房総の地が重要な要害の地であったことによるものであろう。